

坂本篤紀
Sakamoto Atsunori

せせらぎ出版

~~落ちゆく~~
維新と、
その後の希望

松尾貴史
Matsuo Takashi

はじめに

本書の対談はいったん2024年9月末で終わり、11月中旬には原稿ができていました。それからページを組んで印刷し、年内に出版する予定でした。ところが、11月17日の夜、驚くべきニュースが飛び込んできました。

齋藤元彦兵庫県知事の再選です。

本書の内容にも関わることなので、触れずに出版するのは不十分だと判断。急ぎよ、出版を延期し、兵庫県知事選挙をめぐる内容を盛り込んだ結果、出版時期が2025年3月初旬にずれ込みました。この選挙に関して生じたさまざまな事件は、本書の出版時期には事実が確定していないこともあり、お読みいただく時点で状況の変わっているところがあるかもしれません。その点は、なにとぞご了承ください。ただし、本書の趣旨が変わることはないと考えています。

2024年11月の兵庫県知事選挙は、兵庫県議会が全会一致で齋藤知事の不信任案

を可決し、それを受けて齋藤知事が失職を選んだことで行われた選挙でした。さかのぼること、2024年4月以降、齋藤知事はパワハラ問題などでマスコミから猛烈にたたかれていました。そのころの状況から考えると、再選はあり得ないと思われただけに、大逆転の再選だったといえるでしょう。

選挙結果はともかく、この選挙ほど異常な選挙は過去になかったのではないかと思われまます。ネット上は膨大なデマが飛び交い、街頭演説の現場では複数の人が暴力沙汰で現行犯逮捕されています。さらに選挙後は、公職選挙法違反や偽計業務妨害の告発が受理され、また、脅迫や名誉棄損の被害届が出されて、それも受理されています。公正さが損なわれ、民主主義を根底から揺るがす選挙でした。

本書は、兵庫県知事選の発端となった齋藤問題や、その前の都知事選での石丸現象は、大阪維新の会にその源流があるという視点で対談したものです。大阪の維新行政の問題は、コロナ対応や大阪万博の失敗に象徴される失策・愚策、その一方で「お友だち企業」を優遇する偏った政策などに見られます。しかし、それにとどまらず、

熟議を経ずに独断的に物事を決めること、誤った情報を意図的に流すこと、説明責任を十分に果たさないことなど、政策以前に法治国家の体をなしていないことも大きな問題です。それは齋藤県政にも見受けられる傾向です。

本書の発行時点で維新の会の勢いは下降傾向にあります。しかし、その流れをくむ別の勢力が代わって台頭する気配も感じられます。こういった流れを止めて、なんとか健全な社会・政治・行政を取り戻さなければなりません。

そのため、本書の第6章では、関西学院大学の富田宏治教授にゲスト参加していただき、維新後のオルタナティブを提言していただきました。格差を縮小し、分断を解消し、まっとうな経済成長を促し、健全で豊かな社会を築くために、たいへん有効なオルタナティブだと思います。

しかし、もちろん、それが唯一絶対には正しい方策だと押し付けるつもりはありません。あくまでも一つの構想です。むしろ今後、富田先生の提言だけでなく多様な立場

からさまざまな考えが提示され、事実を踏まえて対話や議論が重ねられ、そのプロセスを経て社会の方向性が決められる民主的な政治・行政を望むばかりです。

きれいごとに聞こえるかもしれませんが、健全な民主主義を取り戻すには、きれいごとが大きな力になると考えます。

2024年2月

株式会社せせらぎ出版

コミュニティ・パブリッシング事業部

目次

はじめに	2
第1章 兵庫県知事選から見えること	11
テレビはネットに負けたのか?	12
東京都知事選のときから始まったネット戦略	18
立花孝志の選挙ビジネスの恐怖	22
斎藤当選を実現させたもうひとつの力	26
さかのほればこの流れは東京都知事選から	30
第2章 源流となる維新の悪政	35
2割に向けた維新政治	36
維新の会の愚行をおさらいする	38
維新の悪行はまだまだある	43
「身を切る改革」の身は誰の身か?	49
議員だけではない、都合のいい効率化	52
第3章 お友だち企業のための愚策の数々	57
交通事故ワースト1の大阪	58
私立高校無償化の裏にある闇	61
紅麴事件が物語ること	67
ライドシェアでも同じことが起こるだろう	70
メディアの弱さが顕著になってきた	76
大阪維新の会と吉本興業との関係	82
無駄という名目の文化破壊	85

第4章 万博の向こうに見える悲劇 91

夢洲はいつから北朝鮮になったのか 92
国際花と緑の博覧会と大阪万博の違い 95
30年で5メートルも沈んだ地盤 98
変化していくIRと、その不安 104
ネットカジノの足がかり? 108

第5章 維新のほころび、そして落日へ 113

選挙結果に現れる維新の衰退 114
類は友を呼ぶ? そんな維新の政治家 116
知事の椅子にしがみつく理由 119
維新の凋落とテレビを見ない若者との関係性 123
インターネットは善へ転ぶか、悪へ転ぶか? 127

第6章 維新後の希望をどこに見出すのか 131

不気味なうねりの正体 132
岩盤保守層とネットウヨ 136
ファシスト政党誕生の可能性 142
官製ワーキングプアという問題 145
公契約条例という希望 149
誰もがWin・Winになる施策 151
奨学金の肩代わりから始まる好循環 155
分断政治がまん延しつつある恐怖 157
裏でうごめく不気味な連携 161
分断政治に対抗するための対話作戦 163
大阪再生のための「ギビングスパイラル」 167

第 1 章

兵庫県知事選から
見えること

テレビはネットに負けたのか？

松尾 この対談をしているのは、2024年11月の兵庫県知事選が終わった直後です。僕は兵庫県出身なので注目をしていたのですが、結果には驚きました。

坂本 斎藤元彦が勝ったこと？

松尾 あれ？ 社長は予想されていましたか？

坂本 絶対に斎藤が勝つとは断定できなかったけど、絶対に負けるとも思わかんった。まあ、大阪のみなさん、安心してくださいと言いたい。大阪維新の会に踊らされた大阪はアホばかりやけど、東京都知事選を見たら東京もアホばかり。そして兵庫もアホが多いと思うわな。ネットに踊らされた兵庫の人のなんと多いこと。

松尾 斎藤が勝つかもって、どのあたりから思いました？

坂本 一人で街頭に立ち始めた頃かな。あのあたりからひよつと思つたよ。

松尾 大きな出来事にはアイコンとなる絵が出まわるものです。古くは湾岸戦争の時

の油まみれの水鳥。最近ではアメリカ星条旗の前で撃たれたランプ大統領。斎藤の街頭演説の淋しい光景は軽蔑とか、同情とか、いろいろな感情を揺るがしました。それがネット戦略にうまく乗せられて同情から応援に変わっていった。

坂本 4月以降しばらくの間、斎藤はメディアにバッシングされてたから、あの段階で、仮にあのまま選挙があつたら通るはずはなかった。けれど議会の不信任決議に対して失職を選び、1週間ほど答えを出さへん状況が続いた。そのあと、一人お詫び行脚を始めて、その映像をテレビが垂れ流したあたりからムードが変わつたように思うよ。

松尾 僕はNHKから国民を守る党の立花孝志が立候補した頃に危ないなと思いましたが。

坂本 しかし、兵庫県知事選はオールドメディアとネットの争いだったと言うけど、それは違うよね。あの斎藤の絵をずっと流し続けたのはオールドメディア、なかでもテレビや。

松尾 そうなんです。オールドメディアが負けたわけやないですけど、負けるにふさ

わしい罪はあると思っています。斎藤知事追及の本丸は公益通報者保護法違反であるはずですが。しかしメディアは20メートル歩かされたとか、おねだりしたとか、そんなことばかりを垂れ流してましたから。

坂本 そつちのほうが見聴率を取れるからな。

松尾 それなら報道ではなくバラエティー番組やないですか。

坂本 確かに、陰の戦犯は在阪メディアの可能性はおおいにあるよね。公益通報を握りつぶしたという一番メインの、最も重大な問題を取り上げなあかんかったのに、そつちに焦点を当てなかった。その代わり松尾さんが言ったおねだりしたとか……。

松尾 おねだりなんか小さな問題やないですか。

坂本 何メートル歩かされたとかいう話だけに矮小化したんや。そして不信任になって、その後ピタッと報道が止まって、次に何が映し出されたかというところ、お詫び行脚の淋しい絵。

松尾 失職する前も、本筋の公益通報のことはどこかにいつてしまつて、亡くなった元西播磨県民局長の公用パソコンの中身についてばかり報道していたでしょ。今回ほ

ど人のプライバシーがないがしろにされた選挙はありませんでした。

坂本 一説によると、公用パソコンだけでなく、USBまで没収されて、その中のプライベートなデータが漏洩したらしいで。

松尾 そうなんですか。それはひどいな。それがなければ、立花孝志が選挙ビジネスで儲けることもなかったはずですし、選挙結果は変わったかもしれない。

坂本 プライベートなデータやから、公益通報にも選挙にも全然関係あらへんやろ。
松尾 そういえば、パソコンといえは、僕の友人のコピーライターが、彼の友人である歌手の西郷輝彦さんと、お互いのどちらかが亡くなったら相手のパソコンを壊していくようにと一筆書き交わしていたことを思い出しました。

坂本 その二人は何を保存してんねん(笑)。それで、そのコピーライターは壊しに行つたんかいな？

松尾 それは聞いてません。今度確認しておきます。

坂本 選挙の後半、斎藤が公約達成率98・8%という情報が拡散されたやろ？

松尾 正確には着手率ですよ。

坂本 達成率は27.7%らしい。でも、これも最初に流したのはテレビ。辞職か、失職か、県議会解散か、いずれかを選んでる間に齋藤は在阪キー局に出演した。あのときにとうとうと98.8%の数字を訴えた。それが「達成率」という冠が付いて拡散した。

松尾 批判めいたこと言わないっていう条件をつけていたそうです。視聴率ほしさに、齋藤の条件を丸呑みして、在阪の多くのメディアが齋藤を出演させました。

坂本 立候補を見据えた上での出演としか考えられへん。視聴率ほしさに齋藤に出演を依頼し、齋藤に規制されるままの情報垂れ流したテレビの罪は重いよ。せやから、SNSに負けたんやないと。在阪テレビが流したその情報が100万という票を動かしたんやと。そういう見方すらできる。

松尾 ネットの影響といつても、東京と兵庫では人口も違いますからね。

坂本 そうや。石丸が出た都知事選は東京が舞台やから大都会の選挙。ネット人口も多いに決まっている。一方の兵庫県は地方や。西宮や神戸や明石や姫路だけが兵庫県やない。山のほうへ行ったらまだまだ田舎やで。おじいちゃんおばあちゃんがいっぱい。そんな人がネットを見ているわけがない。

松尾 おじいちゃん、おばあちゃんが見るのは、やっぱりテレビ。

坂本 齋藤の一人行脚の垂れ流しから始まり、テレビが齋藤勝利の強力なベースを作った。

たとえば、県庁から出てきた齋藤知事にどっかのおばちゃんが近づいてきて「頑張ってください」と励ましの言葉をかけた映像がテレビで何度か流れた。不信任決議が通った後のことや。それをテレビカメラがとらえるなんてできすぎやろ。いかにもヤラセの映像やった。あと、100歳のおばあちゃんが、長寿記念をもらったお礼を齋藤知事に言いに来るといふ映像もあったよな。それもうまいぐあいにテレビカメラがそばにおったんや。

こうしてつくられたムードを折田楓らにうまく利用されたと見るべきとちゃうかな。

松尾 そういう意味でもオールドメディアは負けてはいないけれど猛省は促したいです。

東京都知事選のときから始まったネット戦略

坂本 とはいえ、斎藤が勝った要因はメディアだけでなく、いろいろあるよな。ひとつは分断。

松尾 オールドメディア対ネットという図式も分断です。本来なら公益通報に適切に対応したかどうかが問われるべきところ、斎藤は良い人か悪い人かにすり替わってしまいました。あげくの果てにオールドメディア対ネットというメディアの分断につながっていききました。

坂本 分断という火に油を注ぐのがネットや。今回の斎藤のネット戦略を担ったのは折田楓とこの小さなPR会社。選挙が終わったあと、得意げにネット戦略をnoteにアップしてたけどな。聞くところによると、最初、斎藤は藤川晋之助へ依頼したそうやで。

松尾 藤川晋之助って誰ですか？

坂本 元東京維新の会事務局やった人で、選挙プランナーと言ええんかな。東京都知事選における石丸のネット戦略を手伝ったことは、藤川本人も言っている。ただ、斎藤の依頼は断った。せやから、斎藤は折田楓に頼ることになったんやと思う。

松尾 斎藤を最後の最後に陥れるためのハニートラップという噂も出ていましたが。

坂本 それは陰謀論やろ。実際は、折田が選挙の素人で、自己顕示欲と向上心が強かった。電通並みのことを小さな会社がやり遂げましたと、自分が手がけた戦略を発表するなんて、選挙プランナーとしては考えられんことをした。

あるいは、斎藤から目をそらさせるために、折田が鉄砲玉になったんやないかと僕にはにらんでいる。あとの面倒を見るからという条件で折田が全部罪をかぶるという作戦。いずれにしても、一人行脚から始まる逆転劇を描けるのは電通ぐらいしかあらへんから、裏で電通が黒幕として動いていたんやないかと思っっている。

ただし、この本の第6章でゲスト出演してくれる関西学院大学の富田宏治教授は、折田のことも黒幕のことも別の見方をしているから、この続きは第6章に回すことしよか（p. 132）。

松尾 でも、電通は高いから斎藤個人では払えないんじゃないですか？

坂本 確かに、大阪都構想の住民投票のときは、電通が大阪維新の会から請け負った金額は10億円。住民投票には公職選挙法が適用されへんから、いくらでもお金をかけられた。

松尾 でも、大阪維新の会は住民投票で負けて、まだ完済できてないって聞いてます。

坂本 数か月で10億は高いと思うわ。払えへんかった分、何で穴埋めしているのか知らんけど。

松尾 ところで、今回も藤川晋之助流のネット戦略やったんでしょうか？

坂本 主にSNSを使って選挙の流れを変える手法は、東京都知事選から始まっている。7月の東京都知事選の石丸、それに続いて9月の総裁選の高市、10月の総選挙のときの玉木、そして兵庫県知事選の斎藤。あいつらの台頭は、ネット戦略が功を奏したことは間違いない。

実際、都知事選のときに石丸に付いていた16のユーチューブチャンネルのうちの8チャンネルが、アカウントも変えずに玉木に鞍替えしている。それがそのまま斎藤に

流れたという話もある。

松尾 確かに東京都知事選からですね、ネット上の不気味なうねりを感じたのは。

坂本 そして直接的、あるいは間接的に関与しているのが藤川晋之助。2月の東京都知事選の石丸と9月の総裁選の高市には藤川晋之助が直接関与している。10月の総選挙のときの玉木は相談したけど断られたはず。結局どうなったかな。別のチームを紹介されたのか、あるいはまねをしたのか。でも藤川の影響を受けているのは間違いないやろ。

松尾 そのあとが兵庫県知事選……。

坂本 あくまでも噂でしかないけど、折田は東京都知事選のときに石丸陣営にいたという話もある。ただ、石丸と高市のネット戦略を担当したことで、玉木と斎藤にも打診されたけど断ったことは事実で、藤川本人が自分で言っている。

松尾 全部が全部、結果につながらなかったけれど、票を伸ばした人の裏に藤川の影が見えるのは不気味ですね。